

グリコシド剤については、本邦には MRSA にも効果のあるアルベカシン（以下 ABK）があり、これを併用薬のひとつとして使用することも有用ではないかと思われる。そこで、当院で FN に対し ABK が使用された症例について、その効果を調査した。FN 症例 16 例 27 件中、効果判定できたものは 23 件で、18 件 78.3% に有効であった。併用薬の変更や好中球数増加の時期もあるため効果の評価は難しいが、FN 症例において治療に組み込むことは有用と思われた。問題点として、好中球が 0 に近い状態での ABK の PAE が不明のため、1 日 1 回投与法の適応が妥当であるかどうか、さらに血中濃度の適正值が不明であり、今後の検討が必要と思われる。

6 ノロウイルスによる急性胃腸炎アウトブレイク収束の経験

吉川 博子・志田 泰世*・野口久美子*

金子 潤子*・金沢 宏**

新潟市民病院感染症科

同 看護部*

同 手術部**

平成 15 年 12 月 30 日、新潟市民病院の神経内科と整形外科の混合病院の入院患者 47 名中 13 名に下痢、嘔吐の症状が出現した。準夜勤務者にも同様の症状が認められた。病棟発生調査および脱水症状の患者への治療が開始された。出勤していないスタッフにも同様の症状が多いことがわかった。緊急対策会議を開催し、患者隔離・スタンダードプリコーションの徹底及び厳重な接触感染予防策が実施された。胃腸炎の原因はノロウイルスであることが判明した。1 月 8 日には有症状患者は 0 となり、10 日患者の隔離解除・平常業務体制となった。ノロウイルスは、症状が発現する以前の潜伏期にもウイルスの排出があること、初発の症状が噴射状の嘔吐であり、エロゾル化し、飛沫感染することより、病院などの集団生活している場においてアウトブレイクをおこしやすく注意が必要であると考えられた。

7 口腔扁平上皮癌における docetaxel 併用術前放射線化学療法の臨床病理組織学的検討

小根山隆浩・田中 彰・戸谷 収二

山口 晃・廣安 一彦*・岡田 康男**

又賀 泉**

日本歯科大学新潟歯学部附属病院

口腔外科

同 口腔外科学第 1 講座*

同 口腔外科学第 2 講座**

日本歯科大学新潟歯学部附属病院口腔外科で治療を行なった口腔扁平上皮癌一次症例 12 例について、docetaxel を併用した術前放射線化学療法群 5 例と非併用群 7 例について比較検討を行った。

docetaxel 併用群 5 例の内訳は、男性 2 例、女性 3 例、平均年齢 49.8 歳で、原発部位は舌 2 例、上顎歯肉 2 例、下顎歯肉 1 例で、T 分類では T2 : 2 例、T3 : 2 例、T4 : 1 例であった。docetaxel 投与量は 70mg から 80mg で、臨床的治療効果判定では舌 1 例、上顎歯肉 1 例の 2 例で CR と判定し、組織学的にも Grade IV b, Grade III であった。

有害事象は docetaxel 併用群でより重篤な白血球減少と著明な脱毛を認めた、

以上より docetaxel 併用による術前放射線化学療法の有効性が示されたが、適切な症例の選択と対応が必要であると思われた。

8 ロシアでのヘリコバクター・ピロリ感染と病原性：国際共同研究

種池 郁恵・山本 達男

新潟大学大学院医歯学総合研究科

国際感染医学講座細菌学分野

Helicobacter pylori は胃炎、消化性潰瘍さらに胃癌などの発症と関連する病原菌である。ロシアとわが国は人的、物的な交流が急増し、感染症の流入が心配される。極東ロシアでの感染症実態調査の一環として、*H. pylori* について調査した。

ウラジオストク医科大学 Vladimir N. Potapov 教授らの協力を得て、61 名の胃炎・消化性潰瘍患者から胃生検材料を得、菌株を分離した。薬剤感